

# 規範なき地名の取扱いとその影響

公開シンポジウム 地名標準化の現状と課題：  
地名データベースの構築と地名標準化機関の設置に向けて



大信町屋  
大信田園町府

2022.12.18

今尾 恵介

地理院地図(陰影起伏図・透過率80%)  
令和4年(2022)12月17日ダウンロード

# 「地名受難の歴史」は明治に始まった・・・

## 町村制の新町村名についての政府方針

明治21年(1888)内務大臣訓令第352号

合併ノ町村ニハ新ニ其名称ヲ選定スヘシ、旧各町村ノ名称ハ大字(おおあざ)トシテ之ヲ存スルコトヲ得、

尤(もつとも)大町村ニ小町村ヲ合併スルトキハ其大町村ノ名称ヲ以テ新町村名トナシ、

或ハ互ニ優劣ナキ数小町村ヲ合併スルトキハ各町村ノ旧名称ヲ参互折衷スル等適宜斟酌シ勉メテ民情ニ背カサルコトヲ要ス、

但町村ノ大小ニ拘ハラズ歴史上著名ノ名称ハ可成(なるべく)保存ノ注意ヲ為スヘシ

# 市町村数の変遷

資料：『全国市町村要覧』・総務省HPほか

明治16年(1883)末 37区 12,194町 59,284村 計71,515

\* 区は後の市にほぼ相当(名古屋区等。ただし三都は赤坂区・上京区など)

明治22年(1889)末 39市 (15,820町村) 計15,859

\* 市制町村制施行(明治の大合併)

大正11年(1922) 91市 1,242町 10,982村 計12,315

昭和28年(1953)4月 280市 1,953町 7,808村 計10,041

昭和32年(1957)4月 500市 1,918町 1,448村 計3,866

\* 町村合併促進法失効直後(昭和の大合併後)

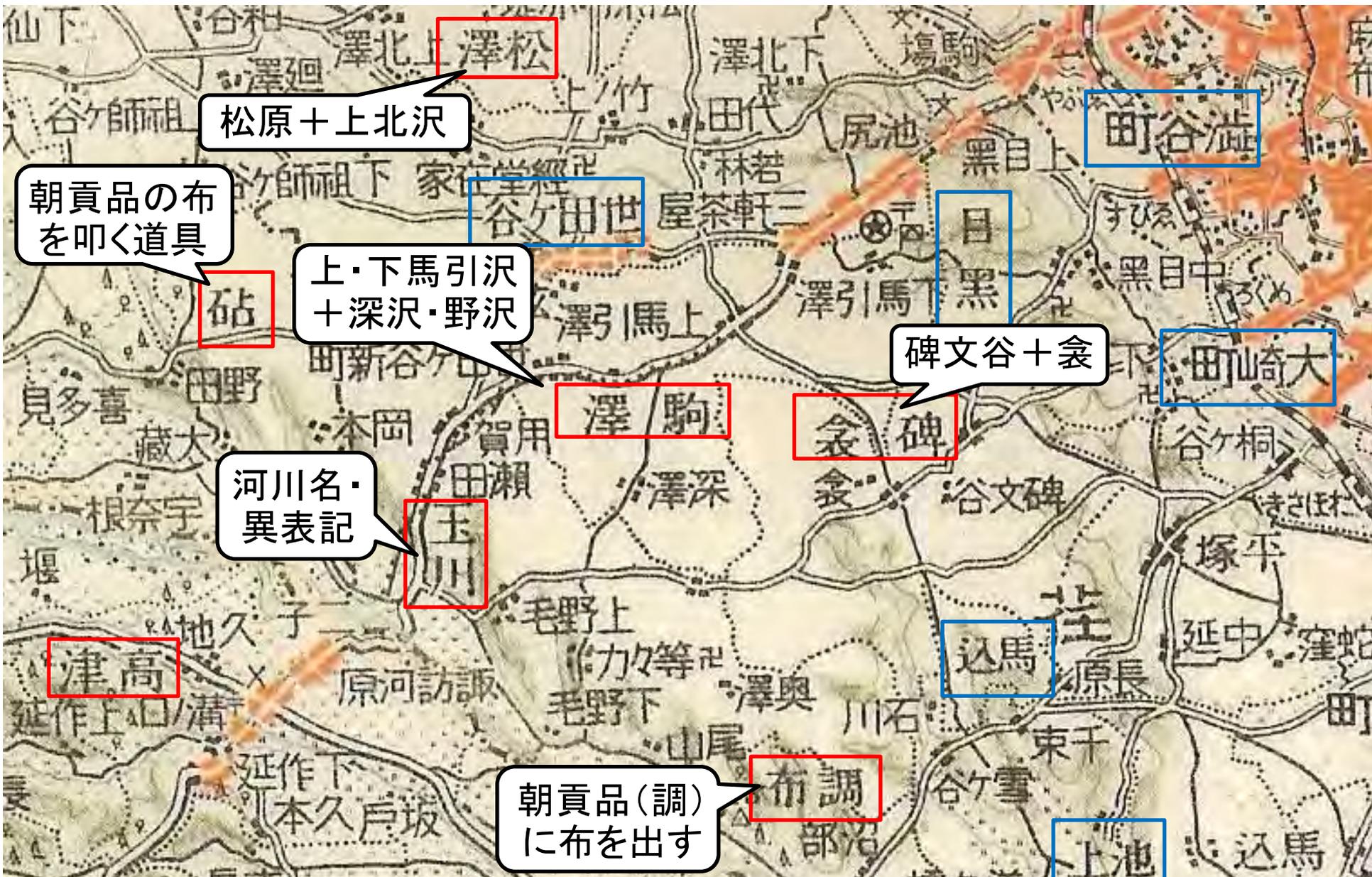
昭和55年(1980)4月 646市 1,991町 618村 計3,255

平成10年(1998)4月 670市 1,993町 569村 計3,232

平成26年(2014)4月 790市 745町 183村 計1,718

\* 「平成の大合併」終了後

# 現東京都世田谷区とその周辺の行政村名



1:200,000帝国図「東京」大正3年製版

# 柳田國男が評した明治22年行政村名の命名傾向

柳田國男『地名の研究』より(ちくま文庫版「柳田國男全集20」18頁)

今日の新町村の名を見てもずいぶん気まぐれな付け方をしたものが多い。明治村や協和村の類を始めあるいは明治二十三(ママ)年市町村制施行当時の社会情態を想像せしむる材料ともなるが、

十三の大字を集めて**十余三(とよみ)村**といったり、七つの大字を合わせて**七会(ななえ)村**といったり十一の大字で仲よく暮らそうというので**土睦(つちむつ)村**といったりするの、後には何のためにこういう名を附けたのか分からぬことになるかも知れぬ。

## 柳田國男が評した明治22年行政村名の命名傾向

柳田國男『地名の研究』より(ちくま文庫版「柳田國男全集20」18頁)

(承前)また大字の頭字を一つずつ持ち寄って名を付けている所もある。『地方名鑑』などを見るとたくさん例がある。出雲の簸川(ひかわ)郡日御碕(ひのみさき)の附近で鶺鴒(うど)・鷺浦の二大字を合わせて**鶺鷺村**というのがある。

もっと甚しい例は甲州の北巨摩郡に水上・青木・折居・樋口の四つの大字で水と青という字を合わせて清、折と口を合わせて哲、**清哲村**とした。これなどは他日清哲という坊さんでも開いたということになるかも知れない。



# 合併自治体名の命名類型

(明治22年以降の行政村名における事例)

①**合併村数** 七会村(茨城県城里町) 六ヶ所村(青森県) 土村(千葉県柏市・11村合併) 土睦村(さいたま市・11村合併) 六会村(藤沢市) 富里市(千葉県・13村合併→十三里→富里) 御代田村(明治天皇の「御代」+田のつく4村が合併)

②**合成** 津田沼村(千葉県習志野市・谷津+久々田+鷺沼) ニツ井町(秋田県能代市・比井野+薄井=「2つの井」から) 田島村(川崎市川崎区・渡田・小田・下新田・田辺新田の「田」+大島・中島の「島」 生田村(上菅生村+五反田村・末尾を合成) 豊科町(鳥羽・吉野・新田・成合の頭音の合成)

# 谷津 + 久々田 + 鷺沼 = 津田沼村 (明治36年町制)



津田沼駅

津谷

津田沼

久々田

昭和29年(1954)  
に習志野市津田沼  
となって消滅

鷺沼

③**瑞祥** 浦安市(3村合併「漁浦安かれ」と村長が命名)  
千歳村(世田谷区など) 瑞穂村(東京都瑞穂町など) 協和村(茨城県筑西市・「力を合わせて平和な村をとという願いを込めて命名」) 明治村(藤沢市など全国に20数村あった)

④**広域** 武蔵野村(武蔵野市一広域自然地名) 橘村(川崎市一郡名) 小宮村(八王子市一江戸期の領名) 多摩村(多摩市一郡名) 袖ヶ浦市(東京湾の古称)

⑤**山河** 名香山村(妙高市一妙高山の古称) 鶴川村(町田市一鶴見川) 富士町(富士市一富士山) 函南町(函=箱根山の南) 湘南村(相模原市一湘江=相模川の南)

# 小田急沿線の旧行政村名 合成・広域・河川・名産・・・

東京堂出版『消えた市町村名辞典』など参照

稲毛米を産する田

田 稻

田 生

上菅生十五反田

推定「歌枕」地名

丘 向

鶴見川の短縮形

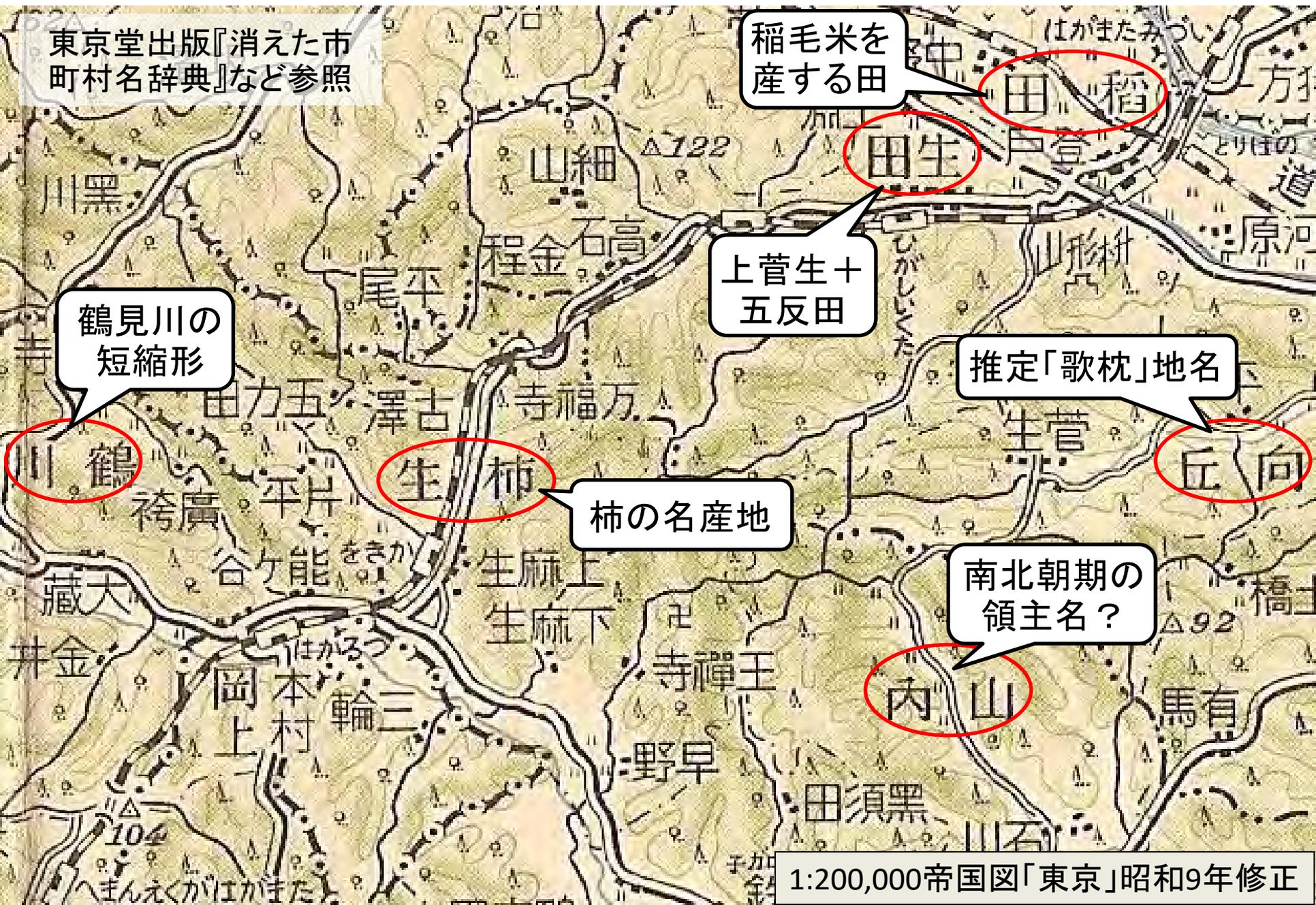
川 鶴

生 柿

柿の名産地

南北朝期の領主名？

内 山



⑥**名産** 柿生村(川崎市麻生区一禅寺丸柿) 藍園村(徳島県藍住町一藍生産の中心地) 橘町(山口県周防大島町一柑橘類の産地) 桑田村(日野市一養蚕業)

⑦**神社仏閣・名所旧跡等** 四條畷市(大阪府一四條畷の戦い) 長瀬町(埼玉県一観光地) 相模湖町(相模原市一人造湖名) 嵐山町(らんざんまち一埼玉県) 野沢温泉村(長野県) 大社町(出雲市一出雲大社)

⑧**その他** 調布町・調布村(東京府一多摩川の「枕詞」) 千丁村(八代市一村の面積が千町歩) 中原町(川崎市中原区一中原街道) 中辺路町(和歌山県田辺市)

# 直江津市と高田市が健在だった頃 昭和34年(1959)



直江津市

高田市

1:200,000「高田」昭和34年編集

# 直江津市と高田市は昭和46年(1971)に合併、**上越市**に

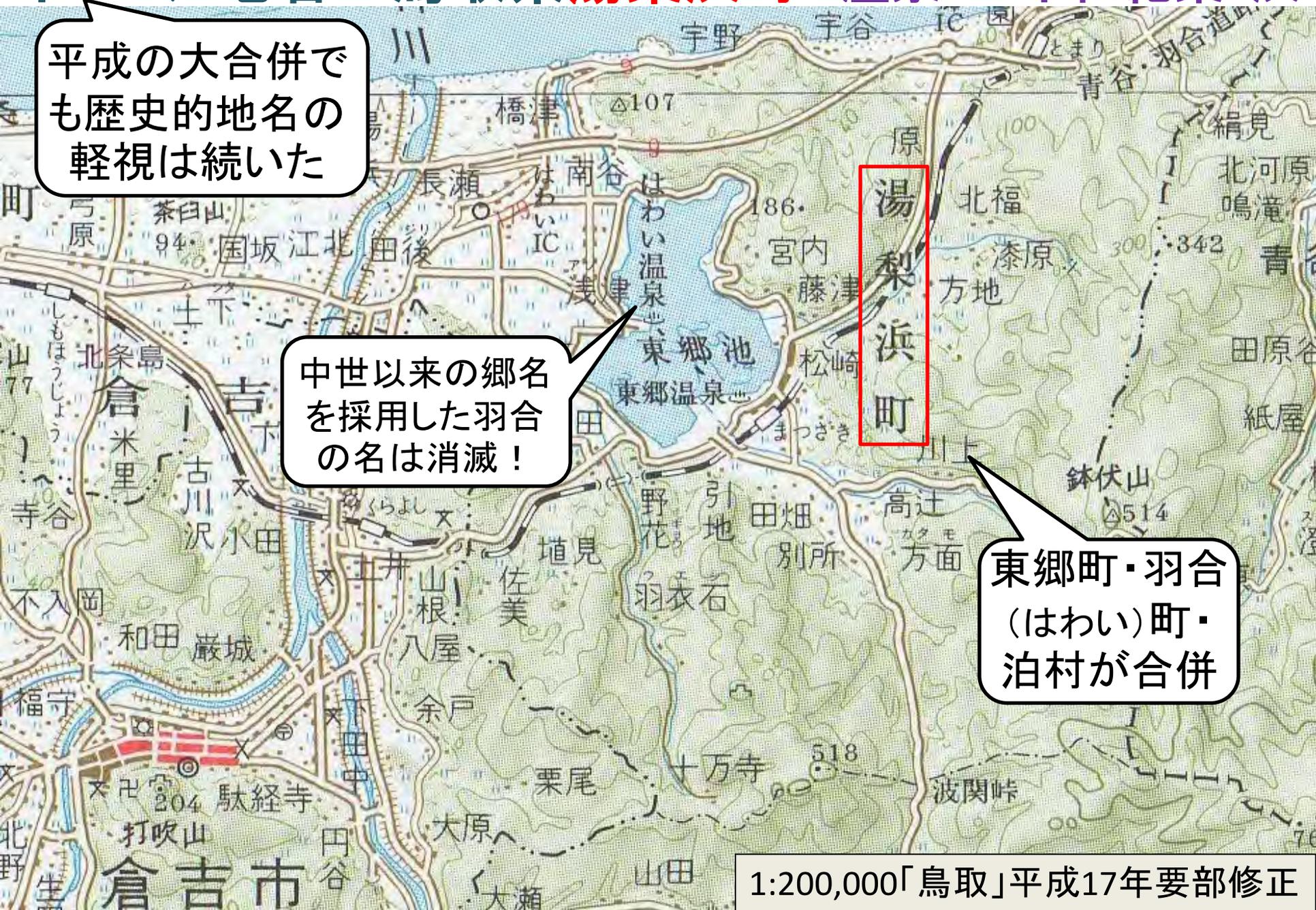
1:200,000「高田」平成24年要部修正

直江津の地名はほぼ消滅(駅、学校など施設名のみ残る)

高田という地名は消滅(駅、学校など施設名のみ残る)



# イメージ地名 - 鳥取県湯梨浜町 温泉・二十世紀梨・浜



平成の大合併でも歴史的地名の軽視は続いた

中世以来の郷名を採用した羽合の名は消滅！

東郷町・羽合(はわい)町・泊村が合併

# 合併に際してひらがな化ー兵庫県たつの市(旧龍野市)

たつの市

龍野市・揖保川町・新宮町・御津町が合併

たつの市龍野町中村にあるJR本竜野駅



# 平成の大合併で誕生したひらがな市・町(一部)

赤字: 新市町名に採用された旧名

( )内は既存のひらがな市町

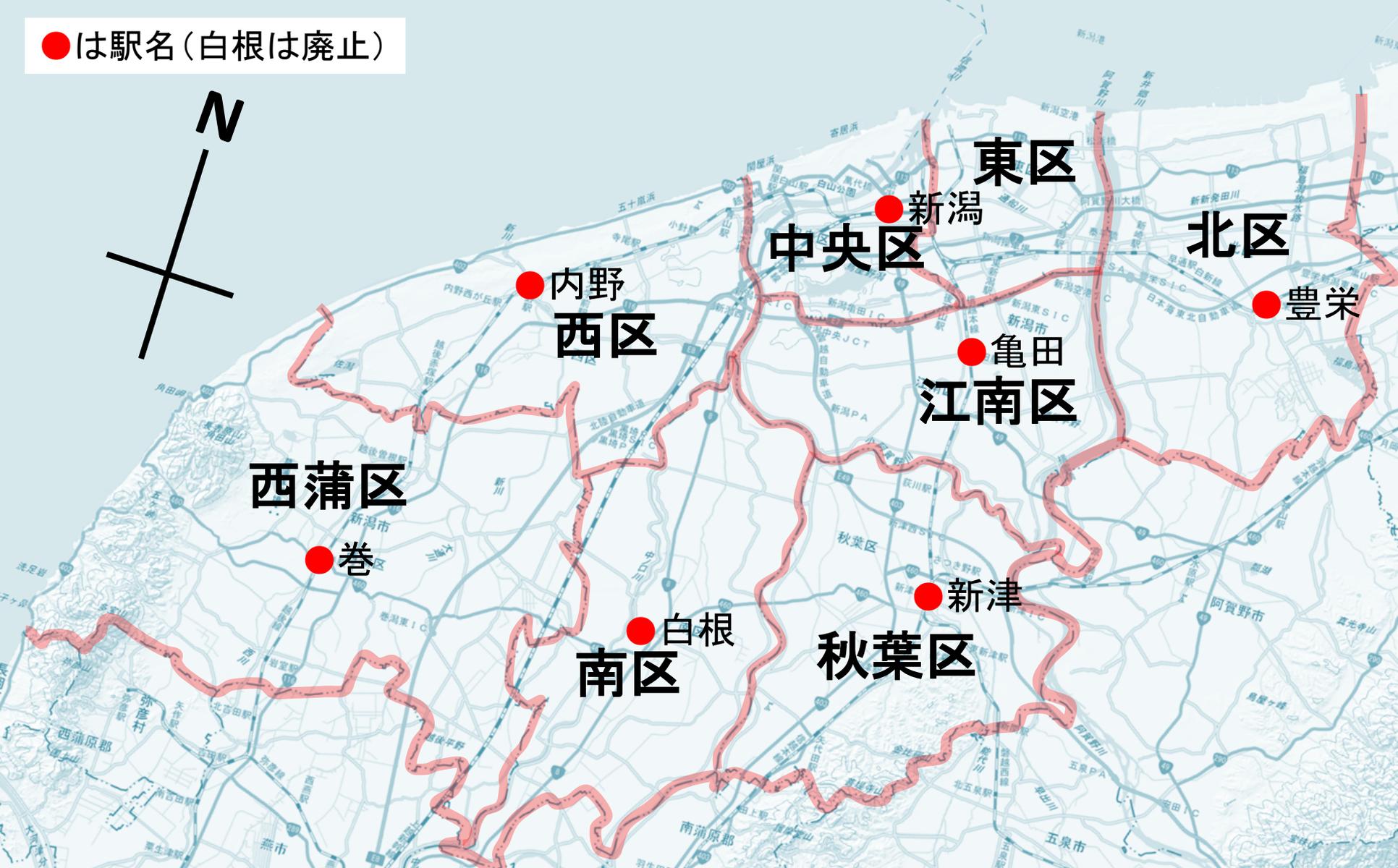
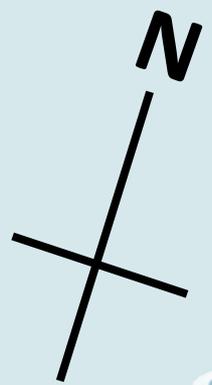
青地: 市町役場所在地

都道府県	ひらがな市町	合併旧市町村					由来
北海道	せたな町	瀬棚町	北檜山町	大成町			郡名
	むかわ町	鶴川町	穂別町				河川名
	新ひだか町 (えりも町)	静内町	三石町				国名
青森県	つがる市	稲垣村	柏村	木造町	車力村	森田村	郡名(地方名)
	おいらせ町 (むつ市)	下田町	百石町				河川名
秋田県	にかほ市	仁賀保町	金浦町	象潟町			
福島県	(いわき市)						
茨城県	つくばみらい市	伊奈町	谷和原村				郡名+普通名詞
	かすみがうら市 (つくば市) (ひたちなか市)	霞ヶ浦町	千代田町				
栃木県	さくら市	氏家町	喜連川町				普通名詞
群馬県	みどり市	笠懸町	大間々町	東村			普通名詞
	みなかみ町	水上町	新治村	月夜野町			
埼玉県	さいたま市	浦和市	大宮市	与野市			* 後に岩槻市を編入
	ふじみ野市	上福岡市	大井町				駅名
	ときがわ町	都幾川村	玉川村				河川名
千葉県	いすみ市	夷隅町	大原町	岬町			郡名(夷隅郡)
東京都	(あきる野市)						
石川県	かほく市	高松町	七塚町	宇ノ気町			郡名(河北郡)
福井県	あわら市	芦原町	金津町				
	おおい町	大飯町	名田庄村				

政治的決着としての「ひらがな市名」

# 平成19年(2007)に政令指定都市となった新潟市と8行政区

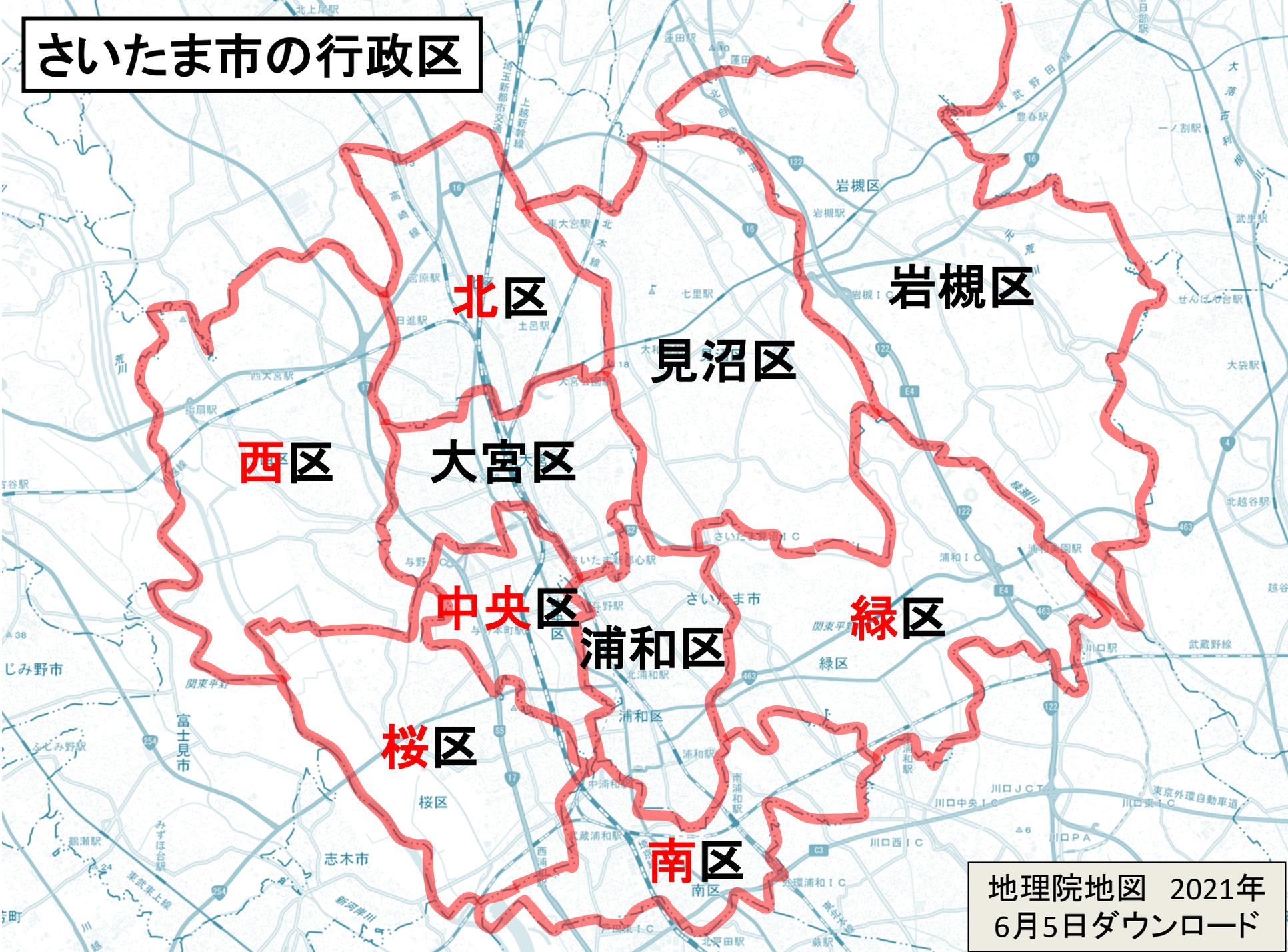
●は駅名(白根は廃止)



# 新潟市の行政区（歴史的地名がない）

北区	豊栄市（葛塚）	新潟市（東部）
東区	新潟市（東部）	「豊栄」という地名 は市名とともに消滅
中央区	新潟市（中央部）	
江南区	亀田町 横越町	新潟市（一部）
秋葉区	新津市 小須戸町	
南区	白根市 味方村 月潟村	
西区	新潟市（西部）	
西蒲区	巻町 西川町（曾根）	岩室村 潟東村

# さいたま市の行政区



# さいたま市の行政区(非地名系が目立つ)

西区	旧大宮市西部	方角	日本史の専門家から「指扇領とほぼ重なるので指扇区はどうか」との提案→黙殺
北区	旧大宮市北部	方角	
大宮区	旧大宮市中心部	旧市名	
見沼区	旧大宮市東部	見沼・見沼代用水に由来	
中央区	旧与野市	住民投票では与野区が多数	
桜区	旧浦和市西部	サクラソウで有名	「サクラソウと桜はまったく別物」との指摘は無視
浦和区	旧浦和市中心部	旧市名	
南区	旧浦和市南部	方角	
緑区	旧浦和市東部	方角	
岩槻区	旧岩槻市	旧市名	

# 「津和野」と「日光」の場所はこれでいいのか



# 行政地名決定に際しての問題点

まず、「**歴史的地名保存**」の幅広い合意がない

**自治体間の争い**→メンツの張り合い、「痛み分け」、人気地名の争奪戦・・・観光振興との混同

→**あるべき地名の姿**から乖離

**地名が示す範囲**の広狭とその合意も不在

→不適切な自治体名が氾濫！

新市名決定プロセスにおける**学識経験者の事実上不在**

→特に「**対等合併**」では**歴史的地名の消滅危険性**が大

→「**規範なき地名の決定**」の横行を改善するためには、**学識経験者**からなる**行政地名の審査組織**が必要では？

# ドイツの合併新市名の例①

○印は従前も市であった自治体

都市名	カタカナ表記	意味	合併年	合併した旧市町村
<b>Albstadt</b>	アルプシュ タット	アルプ川の町	1975	○Ebingen, Onstmettingen, Pfeffingen, ○Tailfingen
<b>Ballrechten-Dottingen</b>	バルレヒテン =ドッティン ゲン	連称	1971	Ballrechten, Dottingen
<b>Garmisch-Partenkirchen</b>	ガルミッシュ =パルテンキ ルヒェン	連称	1935	Garmisch, Partenkirchen
<b>Ahnatal</b>	アーナタール	アーナ川の 谷・流域	1972	Heckershausen, Weimar
<b>Fuldatal</b>	フルダタール	フルダ川の 谷・流域	1970	Ihringshausen, Knickhagen, Rothwesten, Simmershausen, Wahnhausen, Wilhelmshausen

ドイツの合併新市名  
は適切な**広域地名**ま  
たは**連称地名**が多い

# ドイツの合併新市名の例②

○印は従前も市であった自治体

都市名	カタカナ表記	意味	合併年	合併した旧市町村
<div data-bbox="125 199 492 456" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-bottom: 10px;">                     ドイツで唯一、 ラテン語由来 の市名を採用                 </div> <b>Porta Westfalica</b>	ポルタ = ウェ ストファリカ	ウェストファ リアの門（地 形）	1973	Costedt, Eisbergen, ○ Hausberge an der Porta (Titularstadt), Holtrup, Holzhausen an der Porta, Kleinenbremen, Lerbeck, Lohfeld, Mö llbergen, Nammen, Veltheim, Vennebeck, Wülpke; Barkhausen an der Porta (一部), Neesen (一部)
<b>Bernkastel-Kues</b>	ベルンカステ ル = クース	連称	1905	○Bernkastel, Kues
<b>Idar-Oberstein</b>	イーダー = オーバーシュ タイン	連称	1933	Algenrodt, ○Idar, ○ Oberstein, Tiefenstein
<b>Traben-Trarbach</b>	トラーベン = トラーバッハ	連称	1904	Traben, ○Trarbach
<b>Sylt</b>	ズェルト	島名	2009	○Westerland, Sylt-Ost, Rantum

# フランスのコミューンは小規模なものが目立つ (コルシカ島中央部)

Open Street Map

無理に新地名をひねり出さずに広域行政方式とする

ドイツ、フランスの事例はヒントになる？

Vivario村  
人口: 624人 (1982)

Muracciole村  
人口: 71人 (1982)

